

桐生市議会 教育民生委員会 行政視察報告書

視察都市 愛知県田原市（人口 58,968 人/令和5年9月30日現在）

視察日時 令和5年11月8日（水）
午前9時30分 ～ 午前11時00分

視察項目 ・友好都市からのALT誘致について

◎視察概要

（1）説明要旨

視察項目 ・友好都市からのALT誘致について

田原市教育委員会学校教育課 課長 峠 尚良様 より説明

●ALT誘致までの経緯

- ・平成2年にジョージタウン市と姉妹都市提携を締結後、交流事業の一環で平成4年に本市総務課職員を約10か月間ジョージタウン市へ派遣している。
- ・派遣された職員がジョージタウン大学の副学長と調整を行い、平成7年に初めて独自にALTを招致した。
- ・昭和63年度から平成6年度までは、JETプログラムを活用していた。その際には、ジョージタウン市やケンタッキー州の方を優先的に招致できるよう要請していた。

●現在の契約の流れ

- ・毎年、国際交流担当課からジョージタウン市や大学へグリーティングメールを送付し交流を図っている。
- ・令和3年10月開催のオンライン交流会にてALTの派遣継続を依頼
- ・令和5年5月に女性のALT1名、令和5年9月に男性のALT1名が来日

●招聘及び雇用に係る予算

- ・招聘に係る人材及び予算はなし

- ・ 令和5年度予算は8,700,000円程度（任用期間を12か月分と10か月分で計上している。）
 - ・ 令和6年度予算は9,20,000円程度
- ※会計年度任用職員報酬、期末手当、その他に招致旅費、帰国旅費、交通費等
- ※市所有のALT住宅を用意
- ※光熱費等、生活に必要な費用は本人の支払い

●ALTの資格

- ・ ジョージタウン大学の卒業生
- ・ 大学からの推薦を受けた者
- ・ 専攻内容は言語学や英語教育等と規定していない
- ・ 最近のALTの大学での専攻はR4芸術学(陶芸)、R5芸術学(絵画)及び経営学
- ・ ALTは英語の授業指導経験がない
- ・ 田原市で授業指導のスキル等を身に付けさせるための研修は実施していない
- ・ 令和6年度については、招致ALT以外のALTとの業務委託の契約内容に、招致ALTの授業指導を盛り込む予定

●日本国内での交通手段

- ・ 免許及び資格を必要とする車両を運転してはならない
- ・ 勤務先の小学校へは、徒歩、自転車、バス及び電車のいずれかで移動

●ALTの職務

- (1) 地域における国際交流活動への協力
- (2) 学校における以下の活動の補助
 - ① 外国語授業の補助
 - ② 外国語教材作成の補助
 - ③ 外国語教員に対する現職研修への補助
 - ④ その他校長が必要と認める学校業務
- (3) 外国語能力コンテスト等の市主催の行事等への参加及び協力
- (4) その他所属長が必要と認める職務

●学校における外国語指導補助

- ・小学校においては専科教員の補助、中学校においては英語担当教諭の補助
- ・現状は、専科教員や英語担当教諭の指示や支援を受けて補助業務を遂行
- ・令和5年度の招致ALT2名については、両者とも小学校に配置

●外国語指導補助以外の業務

- ・令和5年度より、たはら国際交流協会のイベントなどの国際交流活動に協力
- ・土日曜日のイベント等に参加する場合は、原則時間外勤務

●勤務日及び勤務時間と休憩時間

- ・月曜日から金曜日までの午前8時30分から午後4時15分まで
- ・午後0時15分から午後1時までは休憩
- ・学校勤務ではない日や長期休業期間中は市役所で勤務

(2) 主な質疑応答

Q. 市民との触れ合いについて特色的なことがあるか？

A. 国際交流協会のイベントなど、国際交流活動はこれからの課題である。
ALTのうち1人は、図書館で子どもに絵を教えるなど、絵画専攻の技術を生かす活動をしている。

Q. ALTの人数は？

A. 小学校はジョージタウンから招聘されたALT2名である。
中学校は令和4年度までは市内全中学校4校に2人を配置していた。しかし各校での依頼のタイミングが重複してしまうことから、時間単位での契約に変更した。そのため人数は正確に示すことができない。

Q. ALTの2人にお伺いしたい。学校で過ごす時、どのようなことが楽しいか。

A. 子どもとの関わりが刺激的である。
英語での会話によるコミュニケーションを大切にしている。

Q. 派遣職員のジョージタウンでの業務について。

A. 把握していない。

Q. 派遣職員の財政的な折り合いはどのようにつけたか？市長などが積極的で

あるなどあるか。

- A. 特に把握していない。国際理解などの事業の一環と聞いている。
- Q. ALTの2人にお伺いしたい。アメリカと日本の小学校生活、また子ども達の違いは？
- A. どちらも元気。日本の子どもの方が教員に対する敬意を感じる。
- Q. 日本語を学ぶための援助はあるか？
- A. 日常的な日本語での会話や、日本語取得のための教材の提供など。
- Q. ジョージタウンとの交流は？
- A. 市長、副市長が来年度訪問することを検討しているが、まだ予算はついていない。
- Q. 招聘ALT専門性を活かした場面はあるか？
- A. 個人の特技を活かした、授業時間の組み方を考えることを学校に提案している。

(3) 参考となる点及び課題

【参考】

- ・ 友好都市への職員派遣
- ・ 友好都市との密なコミュニケーション
- ・ 学校教育に留まらないALTの活躍に機会の創出

【課題】

- ・ 国際交流協会のイベントなど、国際交流活動へのALTの関わりについて
- ・ 派遣大学生はALTとして派遣される段階では英語指導経験が必須ではないが、研修による留学生への自己研鑽の機会を設けること
- ・ “NON JET ALT”の処遇に関すること
- ・ 友好都市との関係を軸に雇用に関する条件の構築

◎視察成果による当局への提言または要望等

国際姉妹都市との関係は言語の壁に苛まれ、国際交流という名のもとに形骸化しがちである。国は違っても同じ人間として、友好関係、また信頼関係の構築が重要と改めて考えさせられた。姉妹都市への職員派遣により、積極的な

協力姿勢を示すことは有効であると感じている。田原市職員がジョージタウン市へ10ヶ月派遣され、大学との話し合いや計画を進めるなど、対面による情報収集はスムーズであり、真の国際化都市としての成長が見込まれる事業と言えるとの見解である。

実際に来日された友好都市からのALTの活動は、教育課程の補助を行うJETプログラムのALTとは異なり、教育的な観点よりも国際交流や異文化への理解を深めることに重点が置かれることに意義がある。重要と考えるのは、姉妹都市の大学卒業生が地域の中に溶け込み、市民レベルでの国際交流が可能である点だ。桐生市の子どもが世界に羽ばたくためには、他の国の方と接する機会が全ての子どもに平等に与えられることは、過分ではない未来への投資と考える。

桐生市としても、より密接に姉妹都市と関係を構築し、派遣大学生と地域との繋がりをより意識することや、姉妹都市への中学生派遣を拡張し桐生市唯一の市立高校である商業高校の学生を派遣することなども視野に、真の国際化自治体を目指していただくことを要望したい。